



2021(R3)年度

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

## 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

## 1.運営に関わる事業

=その他、本法人の目的を達成するために必要な事業  
【事業費：0円】

今年度はコロナウイルス感染症拡大防止対策の中、知恵を出し合い試行錯誤した昨年の経験を活かし、通所者・家族・保護者と気持ちを合わせて、できることに取り組みました。財政面では、コロナウイルス感染症の影響による通所者の利用率の変動などと向き合いながらの運営になりました。感染症流行の状況や社会状況に合わせて、迅速に対応することを心がけました。

人との交流が制限されるコロナ禍において、各拠点やプロジェクトで、保護者・家族・地域の人とどうつながっていくことができるか考え、工夫を行いました。

スタッフ研修では、引き続き社会力のケース検討を全スタッフで一年かけて行いました。また、外部研修の機会が減ってきた中、試行的にe-learningを取り入れ自主的な学びの場を増やすことに取り組みました。

コロナと向き合いながら、ひゅーるぽんらしいwithコロナの活動スタイルを考えていきたいと思えます。

### 1-1 各種運営会議

#### 1-1-1 運営に関する会議

- 1-1-1-1 通常総会 6月に開催
- 1-1-1-2 顧問監事会 7月に開催
- 1-1-1-3 理事会 5月・9月・12月・3月に開催
- 1-1-1-4 運営委員会 月1回
- 1-1-1-5 業務セクション会議 月2回
- 1-1-1-6 プログラム検討委員会 年度後半に実施し総括と来年度計画立案
- 1-1-1-7 こども発達支援センター運営委員会 7月・2月に開催
- 1-1-1-8 合同ミーティング 月1回
- 1-1-1-9 所長会議 定例月1回のほか議題に応じて実施
- 1-1-1-10 ディレクター会議 月1回

#### 1-1-2 プログラム実施に関する会議

- 1-1-2-1 コミュニティスペース事業に関わるプログラム会議 月2回以上
- 1-1-2-2 まちづくり・ボランティア育成事業に関わるプロジェクト会議 月2回

## 1-2 活動支援プログラム

- 1-2-1 Hull Fan 668,000円 153口
- 1-2-2 一般寄付 527,741円
- 1-2-3 その他助成金等
  - 生協ひろしま 20,000円
  - 尾崎基金 41,670円 リング製本機などぼんぼんのグッズ作りに必要な機器の購入
  - NPOサポート倶楽部 50,000円

## 1-3 広報プログラム

- 1-3-1 WEBによる情報発信
- 1-3-2 広報紙「うるとらのほし」 6月、12月の2回発行

## 1-4 研修

- 1-4-1 新人スタッフ研修 10回  
(4/26、5/7、5/6、5/10、5/11、5/14、5/25、6/12、7/24、7/26)  
新任相談を月1回実施しました。
- 1-4-2 スタッフ研修 23回
  - 社会力についてのケースカンファレンス 12回  
(4/24、5/22、6/26、7/31、8/28、9/11、10/23、11/13、12/25、1/22、2/26、3/12)
  - 行方不明捜索研修 シミュレーション 7/3
  - 虐待防止研修 講師 松谷 恵子 氏 (まつたに社会福祉事務所) 12/11
  - 発達検査について(2回) 講師 李木 明德 氏 (広島文教大学教授) 10/9、11/27
  - トータルサポートの視点から「豊かに生きる」とは 7/10  
講師 大和 なゆた 氏、大和 みゆき氏
  - 思いをかたちにする 講師 渡部 朋子 氏 (ANT-Hirosima 理事長) 9/25
  - 管理職研修 事故対応について  
講師 三浦 友美 氏 (田村法律事務所 弁護士) 2/5
- 1-4-3 地域の保護者、事業所を対象とした公開研修 0回  
今年度はコロナのため開催ができませんでした。
- 1-4-4 他団体主催セミナー(講座)への参加  
今年度はオンライン形態での研修が多く、参加しやすいメリットもありました。  
広島県主催「相談支援従事者初任者研修」  
「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 更新研修」ほか

## 2. コミュニティスペースプログラム

### 2-1 こども発達支援センター =子どもたちの育ちの支援に関わる事業

#### 2-1-1 児童発達支援事業(ひよこ組) =児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：34,806,396円】

今年度も新型コロナウイルスの感染対策を継続する中での活動となりました。様々な制約がある中でも、子どもたちの育ちを促す視点に立ち、工夫や活動形態の見直しを行いながら日々の活動や行事を進めました。日課は生活年齢に応じたクラス活動と発達課題に応じたグループ活動を組み合わせたスタイルに戻し、全員でのリズム運動や行事に向けた取り組みなどもできる限り取り入れ、子どもたちの経験と力につなげるよう努めました。グループ活動では担当スタッフを固定化せず定期的に入れ替えることで、一人一人の子どもの様子を広い視点で捉え、成長を促すアプローチにつなげることができました。

昨年度の課題であった保護者支援では、オンラインでの参観や勉強会などを複数回行いました。参観や勉強会は毎回参加率が高く、学びの機会や子どもたちの日常の姿を知る機会への期待の高さが伺える一方、オンラインでのプログラムは保護者同士の活発な意見交換や交流へのつながりにくさがありました。コロナ禍で集うことの難しさはあるものの、保護者同士やスタッフとの間で気軽に話すことの機会が多く求められていると感じています。社会での感染状況とのバランスを取りながら、保護者の方と日頃から気軽に話したりつながったりできる機会を工夫して作ることに、次年度も継続して取り組みます。

なお、低年齢からの専門的な発達支援へのニーズの高まりを感じています。支援を必要としている子どもたちにひよこ組としてどのようなことができるのか、引き続き考えていきたいと思えます。



事業目的	2歳から就学前までの発達に支援の必要な子ども達を対象とし、児童発達支援ガイドラインに基づき、生活や遊びの支援を行うことを通して、基本的な生活習慣の獲得や自立、人・集団に対する愛着心を育むこと、毎日をいきいきと過ごしていくための支援を行います。		
実施日時	通年	活動日	245日
実施場所	こども発達支援センター		
登録数	29名 ※3月31日現在	利用人数	子ども のべ 5,594名 ※3月31日現在
実施内容	<p>児童発達支援（ひよこ組） ひゅーるぽん独自の「安心感を基盤とした交流感・有能感・自己決定感の醸成」を基盤として、児童発達支援ガイドラインに基づく支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 季節や文化を大切にしたい行事を実施しました。 はじまりの会、こいのぼり製作、水遊び、七夕製作、年長児プログラム、歯科検診、内科検診、ひゅーるぽん発表会、焼き芋会、お餅つき、冬のお楽しみ会、お正月あそび、節分、ひなまつり製作、すだちの会など 毎月：身体測定を実施</li> <li>○ 発達支援計画提示・中間懇談・まとめ個別懇談、および必要に応じて個人懇談を実施しました。</li> <li>○ 保護者向けプログラムを実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス別交流会</li> <li>・保護者勉強会「ひよこ組の生活-幼児期に大切にしたいこと-」 「就学を考える-小学校入学に向けて-」 「もしも家庭内でコロナに感染したら」 「先輩お母さんのお話を聞いてみよう」 計4回実施</li> <li>・Zoom参観「給食場面の参観-管理栄養士による食育研修-」 「クラス活動の参観」 法人行事「ひゅるりんぴっく（発表会）」の参観 「冬のお楽しみ会」と給食場面の参観 計4回実施</li> <li>・ひよこ組保護者交流会(園庭で実施)</li> <li>・親子行事「パパ・ママと遊ぼう」を2回企画しましたが、コロナウイルスの感染拡大により中止となりました。</li> </ul> </li> <li>○ 月1回「ひよこだより」を発行し、日々の活動の様子等を写真も活用して報告しました。</li> </ul>		

## 2-1-2 放課後等デイサービス事業（きっず組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：13,826,519円】

今年度は、「子どもたちとつながりをつくろう」を目標に掲げ、子どもたち主体で活動を展開できるよう進めてきました。様々な制限がある中でも、工夫しながら「お泊まり会」「ハロウィンパーティー」「クリスマス会」「節分行事」などの行事を実施することができました。行事の準備を通して、協力したり、気持ちを高めあったりすることができました。また、高学年の子どもが低学年の子どものお世話を自主的に行う場面が増えるなど、子どもたちの成長をより一層感じることもできたように思います。一方で、子どもたち主体で活動を進めていくには、きっず組が自分の考えや意思を受け止めてくれる場所であること、それを表現し、実現できる仲間がいることを大切にしていける必要を感じています。

学校連携については、必要に応じて対応することができました。保護者同士の関わりについては、計画的に進めていきたいと思っています。



事業目的	障がいのある子ども、不登校の子どもたちに対して、子どもの思いや願いをくみ取り、大切に育む事を活動の基本とし、安心感を基盤に人や社会とつながって、いきいきと自己の力を発揮していけるよう育ちの支援を行います。		
実施日時	通年	活動日	244日
実施場所	こども発達支援センター		
登録数	きッズ組 放課後デイサービス 36名 その他利用人数 4名 ※3月31日現在	利用人数	子ども のべ 3,500名 ※3月31日現在
実施内容	<p>放課後等デイサービス事業（きッズ組） 6歳～18歳までの不登校及び障がいのある子どもたちを対象として、育ちの支援を行いました。 水曜日を除く、月～金曜日…13:00～17:30 土曜日…9:15～15:30 夏休みなどの長期休暇中の平日…9:15～15:30 ※このプログラムの一部は児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業として実施。 平日の10:00～13:00は自主事業のフリースペースとして実施。</p> <p>○ 昨年に続き、コロナ感染拡大状況にあわせて、通常の活動時間を15分短縮し、消毒作業を徹底することで子どもたちが安全に活動できるよう努めました。合わせて、感染防止のため通所を控えるご家庭にはZOOM配信を通して、工作やクイズなどの企画、子どもたち同士のつながりの場を作りました。</p> <p>○年間を通じ、季節プログラムや子どもたちの生活経験を豊かにするプログラムを実施。 2021年5月…保護者交流会 6月…音楽発表会（ZOOM配信） 8月…お泊まり会 9月…保護者交流会 10月…ハロウィンパーティー、サイクリング 11月…ひゅるりんぴっく 12月…焼き芋会、芋煮会、もちつき大会、クリスマス会 2022年1月…初詣、書き初め大会、凧揚げ 2月…節分 3月…旅行、お別れ会 ※その他、誕生日会を実施</p> <p>○ 個別支援計画提示・まとめ個別懇談、必要に応じて個人懇談を実施</p>		

### 2-1-3 保育所等訪問支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：64,314円】

今年度は保護者や園に事業の意味やシステムを理解していただくための簡潔なパンフレットを作成したことで、説明がしやすくなりました。

児童発達支援事業所を利用しているケースについては関係者会議をもちながら、より契約児童を理解していくことができましたが、コロナが拡大した時期は度々会議や訪問を中止せざるを得ず、継続した支援の難しさがありました。

事業目的	保育所等において、発達に支援が必要な子どもが他の子どもとの集団生活に適應することができるよう適切で効果的な専門的支援を行います。
実施日時	通年
実施場所	契約児童の所属する幼稚園や保育園
実施内容	今年度は7件の契約児童にのべ22回の訪問支援を実施しました。





2-1-4 障害児相談支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児地域支援事業

障害児指定特定相談支援事業 = 障害者総合支援法に規定する事業

【事業費：4,350,193円】

福祉サービスの利用にかかる相談を受け、ご家族の意向を聞きながら、本人にとってより良い支援をともに考えました。コロナ禍で、対面での関係者会議や家庭訪問等ができにくい時期もありましたが、zoomなど新たな手段を活用しながら、状況の把握やつながりづくりに努めました。

今年度は地域の相談支援事業所から引き継ぎを行う等、担当ケースが8件増加しました。しかし地域全体で見ると広島市では福祉サービスを利用している方に対して、相談支援事業所や相談支援専門員の数少なく、計画相談を希望する全ての方に対応することが難しい現状があります。

事業目的	地域の発達に支援が必要な子どもが自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう相談支援を行います。
実施日時	通年
実施場所	ひゅーるぽん、各家庭、学校等
担当件数	63ケース
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害児支援利用計画の作成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害児支援利用計画の作成(63件)</li> <li>・ モニタリング(73件)</li> </ul> </li> <li>○ 障害者自立支援協議会安佐南地域部会 区福祉課、社会福祉協議会と区内の相談支援事業所や子育てにかかわる機関、当事者で構成される隔月の部会に参加しました。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談部会への参加 4回 (うち3回は感染対策のためオンライン)</li> </ul> </li> </ul>

2-1-5 広島市障害児等療育支援事業 =障害総合支援法に規定する事業

【事業費：5,437,810円】

昨年度はコロナの感染拡大もありこれまでで最多の132組もの親子の相談を受けました。そういったニーズに応えるべく、今年度は相談を停止させることなく、感染拡大しない工夫をしながら初期支援体制をできるだけ継続するように努めました。

また子育てサロンに参加している保護者とのやりとりのツールを、電話からメールを中心にすることで連絡のスムーズさや双方向のやりとりも増えてきました。これに加えzoomなどの活用も来年度は積極的に取り組んでいきたいと思えます。

今年度から、低年齢児の集団発達支援「ぴよぴよくらぶ」の通年開催を実施しましたが、コロナの感染状況の高まりと共に休止する時期もありました。しかし診断告知もない親子にとって、なんでも相談でき、気兼ねなく過ごせる大切な場であることを再認識することができました。

来年度も引き続き、どのような状況にあっても親子の味方であり続ける支援を模索していきます。

事業目的	広島市より委託を受け、障害児等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図り、地域の発達に支援が必要な子どもたちの福祉の向上を図ります。
実施日時	通年
実施場所	ひゅーるぽん、オープンスペースKUSUKUSU祇園・佐東など
参加人数	61組の親子の相談に対応しました。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在宅支援訪問療育指導事業 家庭訪問 のべ5件</li> <li>○ 在宅支援外来療育指導事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団支援「子育てサロン」34回実施 のべ237件</li> <li>「ぴよぴよくらぶ」9回実施（本来は15回予定）のべ20件</li> <li>子育てサロンについてはグループに分けたり、園庭のみの利用やzoom対応を行いながら親子が集える場を途切らせることなく作り続けました。</li> <li>・ 個別相談 のべ90件（事業対象はこのうち51件）</li> </ul> </li> <li>○ 施設支援一般指導事業 のべ11件（事業対象はこのうち4件）</li> <li>○ 他機関との連携             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安佐南保健センターと連携した家庭訪問の同行</li> <li>・ NPO法人e子育てセンター KUSUKUSU 祇園・佐東での発達相談 11回</li> <li>・ NPO 法人ママぽっけの季刊紙への年4回寄稿</li> </ul> </li> </ul>

事業目的	こども発達支援センターとしての専門機能をいかし、地域で発達に支援が必要な子どもやその家族への相談、他機関との連携を行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たします。
実施日時	通年
実施場所	こども発達支援センター
対象者	親子、通所児保護者、地域の事業所、学生Voなど
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子育て支援事業=子育てサロンの開催 年間34回 地域の親子が気軽に利用できるセンターを目指して行いました。コロナウィルス感染症拡大時には、人数制限の実施や屋外活動を中心にしたりするなど、工夫して継続開催しました。</li> <li>○ 公開研修の実施 ひよこ組で企画をした保護者勉強会「就学を考える」を、地域の児童発達支援事業所を通じて保護者に周知し、参加の機会を作りました。</li> <li>○ 児童発達支援ひよこ組退園後のアフターフォロー事業 ひよこ組を退園した子どもの保護者を対象とする「こっこくらぶ」 ひよこ組を卒園した1年生保護者を対象とする「こけこっこくらぶ」 今年度は集う形での事業が実施できず、メールでの情報提供などを行いました。</li> <li>○ こども発達支援事業所連絡会の参加 安佐南区内の児童発達支援・放課後等デイサービスのオンラインでの事業所連絡会に参加しコロナ渦での具体的な取り組み、学校連携などの情報提供や共有をしました。</li> <li>○ 福祉施設として実習生等の受け入れ 保育士・音楽療法・社会福祉士実習生の受け入れを実施しました。</li> </ul>

## 2-2 コミュニティほっとスペースぽんぽん（=就労継続支援B型事業所）

=障がいのある人等をはじめとする成人の地域生活ならびに社会参画支援に関わる事業

【事業費：15,912,651円】

通所者一人ひとりが人や社会とつながる喜びを感じながら、いきいきと楽しく豊かに生きていくことを目標に、支援を行ってきました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、感染防止対策や対応に追われた中で、この状況下でもできることを考え工夫しながら試行錯誤した1年でした。

活動では、毎年出店していたイベントの中止により販売機会・社会参画の場の減少、外出レクの見合わせ、旅行の中止など、社会とつながる場・楽しみという場が減りました。日常生活の面では、余暇を過ごすサークル活動の場の中止や休日の外出を控えることで楽しみの減少、家族以外の人と過ごす機会の減少など、生活の幅がより狭くなり社会体験の機会も減っている状況を感じます。本人たちの変化として、感情の不安定さ、話題のパターン化、興味関心の減少、新しいことへの抵抗感など、これまで支援の目標としてきたことを覆されるような状況を感じました。

そのような中でもぽんぽんでできることを考え、取り組みました。本人たち主体の活動を増やすこと、オンラインを活用した外部の方と繋がる工夫、数少ない実施可能な機会にワークショップやレクリエーションなどを行いました。また、将来について考える機会として、ショートステイ施設の見学にも行きました。さまざまな表現活動も大切に取り組んでいます。余暇の過ごし方も、安心安全を第一に、少しでもメリハリのある生活を送るために、本人・ご家族と相談しながら考えていきました。



事業目的	18歳以上の障がいのある人の就労、社会参画ならびに豊かな地域生活の支援を行うことを通して、人や社会とつながる喜びを感じながらいきいきと豊かに生きていくことを支援します。		
実施日時	通年		
実施場所	コミュニティほっとスペース ぽんぽん		
登録数	15名 ※2021年3月31日現在	活動日数	245日
利用人数	利用者のべ 3,064名 ※3月31日現在	ボランティア のべ 11名	
実施内容	<p>○働くことの支援 下請け作業（木工製品のやすりがけ、和菓子ラッピング、発送作業）、アート製品づくり販売、アートレンタル。</p> <p>○表現活動の支援 アート制作、演劇活動参加への支援。</p> <p>○本人主体の活動 レクリエーションの企画、月1回のランチ会の企画、全体発表会に向けた取り組み、ワークショップの企画・準備、花壇管理など</p> <p>○オンラインを活用した、外部と繋がる工夫 委託販売を請け負ってくださっている方を通じた、製品購入者とのオンライン交流会、委託販売先での製品説明会の実施 人権擁護センター「ほっとさん」とのオンライン相談1回、対面相談1回。 公募展入選者のオンライン作品解説への参加。</p> <p>○外部とのつながり 作品展示の実施（ハートフルフェスティバル、廿日市トヨペットショールーム、廿日市美術ギャラリー） 広島市内のカフェに常設展示。</p>		



### 3.まちづくり・コミュニティボランティア育成 プログラム

#### 3-1 まちづくり =まちづくりに関わる事業

##### 3-1-1 アートによるまちづくりプログラム

##### 3-1-1-1 広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2022

=まちづくりに関わる事業

【事業費：2,896,911円】

「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2022」は、広島市とアートサポーターとの協働で開催しました。今回は、コロナ禍にあってもなんとか工夫をしながら、実際の作品に触れていただく機会を作るため、感染防止対策を講じ、会場展示を行いました。昨年はWEB展を開催したことで、これまで会場に足を運ぶことが難しかった遠方の方々にも作品をご覧いただけました。またオンラインの作品解説などを通して新たな形の交流も生まれました。そうしたオンラインの利点を活かせるよう、合わせてWEB展も開催しました。

会場展示では、入選作品とは別に特別展示として、アーティストの日常的な表現活動をより身近にイメージできるように、使用している道具などとともに、より日常に近い形で展示をしました。「作品づくり」という観点とは別に、アーティストが楽しんで表現活動をしている様子や、彼らの表現をうけとめ、大切にしているサポーターの姿を感じていただける展示となりました。

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人のアートが持つ魅力、価値を広く社会に広めていきます。</li> <li>○ アーティストと社会がつながる社会参画の場とします。</li> <li>○ 現場で制作するアーティスト、サポーター同士のつながりを広げます。</li> <li>○ アーティスト、サポーターの表現活動の広がり、高まりを支援します。</li> </ul>
実施日時	<p>会場展 2022年3月8日(火)～3月12日(土)  <small>※感染症のまん延防止措置のため2月12(土)～2月20日(日)の予定を変更して実施。</small></p> <p>WEB展 2022年2月12日(土)～3月31日(木)</p>
実施場所	<p>会場展 合人社ウエンディひと・まちプラザ 北棟4階ギャラリー</p> <p>WEB展 ひゅーるぽんホームページ内 HPAR2022特設ページ</p>
対象者	<p>応募者 391名 (個人、施設、団体など)</p> <p>会場展来場者数 351名</p> <p>WEB展アクセス数 1,375件</p>

<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品の公募を行いました。        公募期間 2021年9月10日～10月15日 総応募 391点       <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付方法 インターネットの応募フォームと郵送の2つの方法で実施しました。</li> <li>・1人一点のみの応募としました。</li> </ul> </li>   <li>○ 会場展 (2022年3月8日(火)～3月12日(土) )       <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査の上、入選作品 126点を決定し、125点を展示しました。(1点は入選後取り下げ)</li> <li>・特別展示「あふれだす表現～日常の生活の中で～」4施設7名の作品を展示しました。</li> <li>・351名の方にご来場いただきました。</li> </ul> </li>   <li>○ WEB展 (2022年2月12日(土)～3月31日(木) )       <ul style="list-style-type: none"> <li>・インデックスページ           <ul style="list-style-type: none"> <li>入選作品 平面5ページ、立体2ページ、こども1ページ</li> <li>選外作品 平面5ページ、立体1ページ、こども1ページ</li> </ul> </li> <li>・作品をクリックすると作品全体と、拡大機能で詳細が見られるようにしました。</li> <li>・各ページにコメント欄を用意し、作品や作品展への感想を書いてもらえるようにしました。</li> <li>・1,375件の閲覧をいただきました。</li> </ul> </li>   <li>○ オンラインと会場を繋ぎ、作品解説をしました。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・3/8(火) 参加者9名</li> <li>・3/10(木) 参加者約20名 ※ひゆるる鑑賞支援プログラムセミナーと同時開催</li> <li>・3/11(金) 参加者10名</li> <li>・3/12(土) 参加者7名</li> </ul> </li>   <li>○今年、特別協賛11社/協賛2社の企業様に協賛をいただきました。</li>   <li>○ 広島市とアートサポーターと協働で実施し、サポーターの方には関連企画の広報や企業への声かけの協力を呼びかけました。</li>   <li>○ ポスターやDMなどの印刷物を用いて、応募者や関係各所へ広報を行いました。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひゆるるぼん、広島市、まちづくり市民交流プラザのホームページ等</li> <li>・らしっく (1月号)</li> <li>・市民と市政 (2/1号)</li> <li>・中国新聞 イベント情報欄 (2/12(土)朝刊)</li> <li>・SNS 情報発信 など</li> </ul> </li> </ul>
-------------	--



### 3-1-1-2 幸せProducts. =まちづくりに関わる事業

【事業費：1,465,504円】

社会の中にアートがある面白さを伝えるプロジェクトとして、作品に触れる機会をつくったりアートが身近なところを感じられる取り組みを行なったりしてきました。

新型コロナウイルス感染予防のため、自由に動き活動を展開することは難しかったですが、協力していただける皆様と一緒に、工夫しながら継続していくことができました。「ダイハツ広島販売株式会社」の広島県内直営店舗へのアートレンタル事業は、唯一常設の展示場所と、作品の発表と鑑賞していただく機会とを確保する場となりました。

事業目的	○ 社会の中で障がいのある人のアートの普及と障がいのある人の社会参画を促進します。 ○ アートをまちづくりに活かす取り組みをムーブメントとして高めます。
実施日時	通年
実施場所	ダイハツ広島販売株式会社 各店舗（広島県内） 幸せProducts.事務局内
実施内容	ダイハツ広島販売株式会社直営20店舗(本社含め)へのアートレンタルの窓口となり、協力団体・事業所・個人の方々と連携し、中心になって事業を進めていきました。





3-1-1-3 アートスペース（陶芸・絵画） =まちづくりに関わる事業

【事業費：479,450円】

昨年度に引き続き、感染症予防に配慮しながら、会場とオンラインを取り入れて実施しました。参加者の描きたい、創作したい、発表したいという気持ちを活動の軸に置き、他者と場所や時間、それぞれの思いを共有し、色々な考え方を取り入れながら物事を進めていく楽しさを感じる場になるよう努めました。

コロナ禍であることから、外部の参加者を受け入れにくい状況ではありましたが、事前に連絡いただいた方に創作体験していただいたり、扉を開け、活動の様子が見ることができるよう工夫しました。活動に興味のある方や新たに参加希望されている方がいらっしゃるため、社会の状況に配慮しながら、今後も活動を深めていくとともに、外部の方にも表現する楽しさを体験できる場となるよう取り組んでいきたいと思います。

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人のアートを支援するノウハウと資源を活用し、アートに取り組む環境を提供していきます。</li> <li>○ 地域へ開かれたアート教室を開催し、制作環境を高めていきます。</li> <li>○ アーティストの発掘とアートの社会化を目指していきます。</li> </ul>
実施日時	通年
実施場所	コミュニティほっとスペース ぽんぽん、安佐南区民文化センター
実施内容	<p>(1) アートスペース絵画の開催。毎週火曜日に外部の方を対象に、会場（ぽんぽん）とオンラインにて、表現の場づくりに取り組みました。</p> <p>(2) アートスペース陶芸の開催。月2回、外部より専門の講師を招き、会場（安佐南区民文化センター）とオンラインにて表現活動やクリスマス会を行いました。</p> <p>(3) 公開ワークショップは、感染予防を考慮し休止しました。</p> <p>(4) HPAR2022に全員が応募し、4名の作品が展示されました。</p>



### 3-1-1-4 アートサポートセンターひゅるる =まちづくりに関わる事業

【総事業費：8,103,543円】

[内訳:広島県受託費 8,093,132円/自主事業費 10,411円]

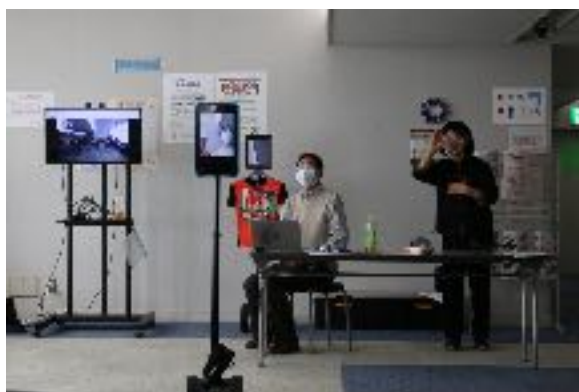
「広島県令和3年度障害者文化芸術活動支援事業」を受託し、広島県アートサポートセンターの運営をしました。

今年度は、多様な芸術活動とその取り組みを広く紹介するとともにその活動をサポートし、広島県における芸術の多様性を広げることと、支援、取り組みニーズの多い美術分野の支援を引き続き行ってきました。また、支援者のネットワークづくり、鑑賞支援のあり方の検討など取り組みを深化させ、より一層、表現活動への参加を促進することの2点を活動目標とし、美術分野、身体表現分野、演劇表現分野でセミナーやワークショップ、座談会などを実施しました。

鑑賞支援では、昨年度に引き続き、広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターが協働で取り組みました。オンラインを使った鑑賞会や「ことば」「写真」の作品公募を行い、新しい鑑賞支援のあり方や鑑賞の楽しみ方を知る機会になりました。

その他、コロナ禍でも、県内広域で障がいのある方たちが身近な場所で表現活動に出会い、体験できる場を増やしていきたいと考え、初めて助成金事業を実施し、3つの団体の活動をサポートしました。また、創作活動の充実、向上と表現活動の裾野を広げることを目指して、福祉施設・事業所、団体、約50箇所に画材の支援を行いました。助成金事業、画材支援プログラムでは、初めて参加される障がいのある方やこれまでやりとりがなかった施設、事業所、団体からの申し込みがありました。相談件数も昨年より増えており、このことから表現活動のニーズの高まりや広がりを感じています。

社会やその現場の状況を読みながら事業を進めていく大変さはありませんでしたが、多くの人、施設、事業所、団体から協力を得ながら進めていくことができた一年でした。次年度も、障がいのある方、サポーター、施設、事業所、団体のニーズを聴きながら、それぞれに繋がることのできる活動を考え進めていきたいと思えます。



3-1-1-4-1 広島県受託事業詳細 [令和3年度広島県障害者文化芸術活動支援事業]

【事業費：8,093,132円】

事業目的	<p>○障がい者文化芸術活動に関わる、活動基盤の充実・強化。 ○アートに関する、相談窓口。 ○今後の障がい者アートのあり方を考え、目標を共有する。</p>
実施日時	2021年4月1日～2022年3月31日
実施場所	<p>NPO法人 ひゅーるぼん、広島市安佐南区民文化センター、有限会社 木利画材、広島市安芸区民文化センター、東区民文化センター、はつかいち宮島情報センター、社会福祉法人友和の里、トヨペット廿日市店ナレッジルーム、ゲンバトホール など</p>
実施内容	<p><b>(1)広島県アートサポートセンターの運営</b> 広島県「令和3年度障害者文化芸術活動事業」を受託し実施。アドバイザー2名（兼務）を配置。</p> <p><b>(2)障がい者アートに関する普及・啓発と情報発信</b> 関係団体やイベント・セミナーにてパンフレットを配布。HP、Facebook、Instagramなどで情報を発信。 年間発信数：ホームページ212件、Facebook 214件、Instagram 25件 合計 451件 アクセス数：ホームページ 30,940件、Facebook 9,404件、Instagram 853件 合計 41,197件 アートの権利に関するQ&amp;Aハンドブック配布数：14件</p> <p><b>(3)障がい者アートに関する相談窓口</b> 電話、ホームページ、訪問。講座を通して相談を受付、対応。（新規相談数：71件）</p> <p><b>(4)人材育成事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アートセミナー「ここだけは押さえておこう 作品撮影の基本のき」 開催日時：2021年7月31日（土） 場所：広島市安佐南区民文化センター 講師：（カメラマン）西田 英俊 氏 参加者：5名</li> <li>●アートセミナー「ここだけは押さえておこう 紙、水彩絵具の基本のき」 開催日時：2021年8月7日（土） 場所：有限会社 木利画材 講師：（元支援学校教諭）細川 泉 氏（画材展スタッフ）片山 修 氏 参加者：13名</li> <li>●オンラインセミナー「アートとフクシのコラボーション～ときどきキョーイク」 開催日時：2021年11月27日（土） 方法：オンライン 講師：（画家、アートNPO障害者アート支援工房ココペリ代表）米田 昌功 氏 参加者：13名</li> <li>●セミナー「障がいのある方の意思決定支援を考える～あなたの「やりたい」を真ん中に～」 開催日時：2022年1月22日（土） 方法：（延防止等重点措置発令のため会場からオンラインに変更） 講師：（かたつむり学舎 代表）福崎 はる 氏 参加者：20名</li> <li>●おしゃべり座談会4回 合計参加者：38名</li> </ul> <p><b>(5)創作支援事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●身体表現セミナー&amp;ワークショップ「ほぐすつながる 表現あそび」 開催日時：11月20日（土）、12月11日（土） 場所：広島市安芸区民文化センター、有限会社 木利画材 講師：（ART COMPLEX HIROSHIMA 代表） 玖島 雅子 氏 合計参加者：13名</li> <li>●演劇セミナー&amp;ワークショップ「演劇×福祉で できること みえること」 開催日時：2022年1月13日（木）～14日（金）蔓延防止等重点措置発令のため延期→2022年3月17日（木）～18日（金）予定 場所：広島市東区民文化センター 音楽室 講師：（一般社団法人 舞台芸術制作室 無色透明 代表）岩崎 きえ 氏/ 坂田 光平 氏</li> <li>●専門家派遣 講師派遣2回 アドバイザー派遣5回</li> </ul> <p><b>(6)その他障害者文化活動の振興に資する事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会～君の見方で絵をみよう～ 開催日時：2021年10月16日（土） 方法：オンライン 参加者：7名 連携機関等：広島県、広島大学、広島県立美術館</li> <li>●オンラインギャラリー「1枚の絵をきっかけに～はじまることば・はじまる写真～」 作品募集期間 2021年10月16日（土）-12月17日（金） 公開期間 2022年2月3日（金）～3月31日（木） 方法：オンライン 展示作品：ことば表現12作品 写真作品13作品 連携機関等：広島県、広島大学、広島県立美術館</li> <li>●助成事業「アートの巣箱」 蔓延防止等重点措置発令のため2月28日から延長→2021年9月-2022年3月31日まで 場所：はつかいち宮島情報センター、社会福祉法人友和の里、トヨペット廿日市店ナレッジルーム、有限会社 木利画材、ゲンバトホール 助成金交付先：art201、ART COMPLEX HIROSHIMA、一般社団法人 舞台芸術制作室 無色透明</li> <li>●画材支援プログラム 開催日時：2022年2月3日（木）～3月31日（木） 支援先：広島県内の障害者施設・事業所およそ50カ所</li> </ul>

### 3-1-1-4-2 アートサポートセンターひゆるる自主事業

(文化芸術による共生社会の推進を含む)

【事業費：10,411円】

感染予防に配慮し、他機関の事業（ダンス、演劇、作品展）のサポートや相談対応を行いました。

2022年3月に報告があった厚生労働省「障害福祉分野の行政職員を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」の役立った資料の中に、当センターが2014年度と2016年度に作成した「障がいのある方のアートに関する権利Q&Aハンドブック」が上げられていました。ハンドブック発行年から数年が経過し、障がいのある方の作品にもデジタルや映像、音楽など、多様な表現を取り入れた作品がみられるようになっていきます。新たな表現の出現に伴い、再度権利について勉強する必要を感じています。

今後も、他機関、他施設・事業所などと一緒に悩み、考え、障がいのある方のアートの発展に取り組んでいきたいと思えます。

事業目的	<ul style="list-style-type: none"><li>○ アートによるまちづくり事業と協働し、社会への普及啓発を行います。</li><li>○ 障がい者アートの普及・発展に向けた取り組みを行います。</li><li>○ 障がい者アートを取り巻く社会情勢を踏まえ、新しい視点を提案します。</li></ul>
実施日時	通年
実施場所	広島市内
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 他機関、他施設などと協働した取り組みの実施。</li><li>○ アート活動に関する、相談や協働の窓口。</li><li>○ 必要に応じ、各施設・団体との協働で事業を実施。</li><li>○ アートスペース事業のサポート。</li><li>○ 障がいのある人とともに創る演劇、ダンス、作品展事業のサポート。</li></ul>

### 3-1-2 地域・社会啓発つながりづくりプログラム

#### -3 地域協力プログラム

#### -4 地域交流プログラム

＝まちづくりに関わる事業

【事業費：76,809円】

今年度は、コロナウイルスの感染状況が落ち着いているときには、工夫を凝らし感染対策をしながら交流イベントを実施することができました。佐東公民館と共催で実施した「つながろうコンサート」や「焼き芋会」では、コロナ禍で発表の場や活動の機会をなくしていた公民館団体とコロナ禍でなかなか地域行事が実施できなかった私たちが協働し、園庭で地域とつながりを感じられるイベントを行うことができました。

事業目的	啓発活動とあわせて、地域住民やボランティアとつながりをつくったり、深めたりしていきながら、「ともに生きていく」地域づくりを目指します。
実施場所	NPO法人ひゅーるぽん
対象者	地域の人、通所児・者、スタッフ、保護者など
実施内容	<p>1.コロナでもつながろうプロジェクト「つながろうコンサート」 2021年10月29日（土）16時半～17時半 参加者：約30人 内容：佐東公民館の登録グループ「ジートルズ」さんによる演奏 感染拡大防止のため園庭への入場制限をするとともに、YouTube生配信を並行して実施しました。</p> <p>2.焼き芋会 2021年12月4日（土）10時～14時半 参加者：約50人 内容：佐東公民館の登録グループ「おやじの料理」さんの協力で焼き芋を実施。地域の方が各自思い思いに名前を書いた芋を持参したり提供する芋でおいしくいただきました。</p> <p>3.もちつき大会 2021年12月18日（土）10時～14時半 参加者：約60人 内容：豚汁の材料の寄付や当日のお手伝いなど通所者家族に協力していただき、食を通して保護者同士やスタッフとつながりあえる行事となりました。また地域の子ども達もたくさん来られました。</p> <p>4.芋煮会 2021年12月25日（土）10時～14時半 参加者：約50人 内容：もちつきでたくさん集まった寄付の野菜があったため、急遽企画し通所者や家族の方を中心に地域の方も声をかけ、寒くてもほっとあたたまる時間が過ごせました。</p>

### 3-2 ボランティア育成プログラム

＝ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

#### 3-2-1 ボランティアセンタープログラム

【事業費：23,404円】

昨年度は、コロナの影響でほとんど外部の方やVoの受け入れができなかったのですが、今年度はボランティアの受け入れの再開をすすめるために新たに受け入れのガイドラインを作成し、可能な限り受け入れをすすめていくことができました。

ただし人数制限は余儀なくされ、個人ボランティアのみの受け入れとはなりましたが、次年度は状況を見ながら学生ボランティアグループの活動の場や夏の講座なども再開できたらと考えています。

事業目的	○ ボランティアに関心のある人々を巻き込んでいながら、学び・学び合いの場を提供していきます。 ○ 私たちが展開する様々なプログラムに参加することを通じて、ボランティア・市民活動について相互に学び合う場を作ります。
実施日時	通年
実施場所	ひゅーるぽん
対象者	学生、企業など
実施内容	(1) 受け入れにあたりフェーズごとのガイドラインと同意書の作成 (2) 感染予防をしながら個人ボランティアを受け入れ

#### 3-2-2 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議プログラム

＝緊急・災害時の支援に関わる事業

【事業費：0円】

事業目的	「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」構成団体として、協働しながら災害に備え、災害時にはその対応にあたります。
実施日時	通年
実施内容	○調整会議への出席

3-2-3 講師・委員派遣 =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

(講師等)

6/9・16 比治山大学「ボランティアワーク」講師

10/28 広島文化学園大学音楽学科「児童発達支援センターについて」講師

11/24 広島市立大学塾講師

(委員)

広島市社会福祉審議会全体会委員

広島市社会福祉審議会子ども・子育て専門部会委員

広島市社会福祉審議会高齢福祉専門部会委員

広島市地域福祉活動推進基金助成事業審査委員

広島市社会福祉協議会理事

広島市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員長

広島市社会福祉協議会基金管理運営委員会委員長

広島市社会福祉協議会地域福祉総合企画委員会委員

広島市安佐南区社会福祉協議会評議員

公益財団法人コミュニティ未来創造基金評議員

広島県あいサポートアート展審査員

など

3-2-4 職場体験・実習生等の受け入れ =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

(1)職場体験 コロナ禍のため依頼なし

(2)実習	広島文化学園大学	音楽療法実習	オンライン	(1日)
	広島国際大学	保育士実習		1名(13日)
	広島文教大学	社会福祉士実習		1名(15日)
	広島県立大学	社会福祉実習		1名(15日)

(3)インターンシップ コロナ禍のため依頼なし

## 令和3年度 活動実績

### 1.年間活動時間

#### 【内訳】

①運営に関わるプログラム	会議日	156時間	(昨年度128時間)
②コミュニティスペースプログラム	年間	245日	
③まちづくりプログラム		270時間	(昨年度206時間)
④ボランティア育成プログラム		10時間	(昨年度27時間)

### 2.ボランティア年間活動参加のべ人数

52名 (昨年度23名)

■センター	36名	(昨年度13名)
■ぽんぽん	11名	(昨年度 5名)
■まちづくり	5名	(昨年度 5名)

### 3.会員登録数

136名 (昨年度129名)

■正会員	28名	(昨年度28名)
■賛助会員	108名	(昨年度101名)